

校内研修計画

甲州市立 祝小学校

1 学校課題

本校は、全学年1クラスで、各学級20名前後の小規模校である。児童は、明るく素直で、仲が良く、異学年の交流の場もあるため、家庭的な雰囲気も見られる。

学習面でも、真面目に取り組む姿が見られる。しかし、自分の気持ちや思いを人前で発表することに対しては、まだ十分とは言えない。とは言うものの、校内研修会で話し合い、学校全体で取り組みを続けているため、児童の発表する力、書く力は、少しずつではあるが向上してきていると感じる。

昨年度、本校では、「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして～「書く活動」と「学びの場」を充実させた授業づくりを通して～」というテーマの下、全員が提案者となって、互いに学び合い、指導技量を高め合う職員集団を目指して研究に取り組んできた。また、これまで研究してきたことを活かしながら、さらに「話す・聞く」を中心とした「学びの流れ」と学習形態のあり方を工夫し、より効果的な「学びの場」づくりについて研究し、授業の中で実践してきた。

年度末の反省では、「本校の児童の実態を踏まえ、継続した研究により、目指す子ども像に一步一步近づいていく様子が見られて良かった。」「書く活動を意識して授業の中に取り入れ、学びの場を工夫したことで児童の書く力や伝える力を高めることができた。」などという反省が多く出され、大きな成果があったと確認し合った。

出された意見をもとに話し合いをした結果、方法論や内容的にはよいので、継続した研究を望む声が多かった。しかし、研究教科の設定については、2通りの意見に分かれた。1つは、『学びの場』を情報交換の場とすると、深まりがないので、効果的な『学びの場』の定義づけをする中で、討論の場を設定していく研究もよいのではないか。情報交換としての場であれば、他の教科の中でも行っているの、深まりを考えると国語の教科がよいのではないか」という意見である。

もう1つは、「3年間に渡り、教科を国語に絞って研究をしたことにより、児童が力をつけてきたので、言語力を視点に他の教科に広げていくのも良いのではないか」という意見である。

どちらを選択するにしても、「自分の考え」をしっかりともち、相手に伝えることができる児童をめざして研究を進めたいという点が共通した意見だった。

2 研究主題

「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」
～「書く活動」と「学びの場」を効果的に活用した授業づくりを通して～

3 主題設定の理由

本校の学校教育目標である「心身ともにたくましい子どもの育成 ～かしこく・やさしく・たくましく～」を具現化するために、私たち教職員は、自己の指導技量を高められるよう、日々教材研究を行い、わかる授業、楽しい授業の実践に努め、学校内外の研修にも励んでいるところである。

本校の児童は明るく素直で、何事にもまじめに取り組む児童が多い。また、友だちとも協力し合い、仲よく活動することができる。また、全校で取り組んできた「話すこと・聞くこと」のきまりを身につけ、自分の考えを発表できるようになってきている。

児童の話し方や聞き方は、向上してきているが、「考えを出し合い、考えを練り合ったり、高め合ったりすることまではできない。」「司会の進行の仕方、意見のまとめ方についてはまだ不十分」という児童の実態もある。

これまで、「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童」をめざして、21年度は発表の仕方を中心に研究に取り組んできた。また、22年度は「自分の思いや考えをどのようにまとめて、どのような順番で発表したらよいか。」といった具体的な方法や手順を指導し、発表の元となる自分の思いや考えを自分が納得する形でまとめる力をつけさせるために「書く活動」について、研究を進めてきた。そして、23年度は、「学びの場づくり」について研究し、一人ひとりの発表や聞く活動からさらに一歩進め、自分の思いや考えを交流して学び合い、さらに自分の思いや考えを深めたり、豊かなものにしたるために、どの学習場面でもどのような学習形態が有効なのかということの研究してきた。そして、昨年度は、「学びの流れ」と学習形態のあり方を工夫し、より効果的な「学びの場」づくりについて研究した。3年間に渡る「書く活動」の研究で自分の思いや考えを積極的に相手に伝えるために、「書く活動」が、とても重要であることと、二人組やグループ活動が一人ひとりの個を磨く場にもなることがわかった。

しかし、考えを練り合ったり、高め合ったりすることまでは十分でないという児童の実態を改めていくことは課題として残っている。

したがって、本年度はこれまでの研究成果が、どのように学力の向上や集団の質の改善につながっているか、より具体的に分析する時期にきている。そのツールとして、全国学力・学習状況調査・県学力把握調査、また甲州市の「確かな学力」育成プロジェクトの取り組みに連動した NRT・Q-U 調査を分析手段として有効活用したい。そういった中で、「書く活動」と「学びの場」に、より学習効果を高める授業構造を開発したいと考える。

4 研究の具体的内容と方法

① 具体的内容

- 一人一授業公開実践
- 「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」、理論研究と「書く活動」と「学びの場」の具体的な取り組みについて
- Q-Uの実施（5月、11月）と分析・活用の充実
- 全国学力・学習状況調査の分析と課題
- 県学力把握調査の分析と課題
- 教育課程講習会の環流報告

② 方法

- 一人一授業公開実践のうち、2本は共同研究とし、ブロックで事前に検討する。
- 研究授業は、共通の視点【自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童】をめざし、書く場面とお互いの考えを交流して学び合う場面を授業の中に入れた実践を行う。
- 年度初めに、児童の国語に関する実態調査を行う。その結果に基づき、児童の「自分の思いを伝える力」の向上のために取り組むことを学校体制で確認し、年間を通して実施していく。年度末に児童の変容を見取り、1年間の取り組みの反省を行う。
- 個に応じた指導の充実をさらに推進するために、Q-Uを実施し、分析・活用をしていく中で児童理解を深める。
- 全国学力・学習状況調査と県学力把握調査の結果をもとに、課題を確認し、改善策をたて、実践する。

5 年間校内研修計画

研究主任 赤星 美佐

| 回数 | 月 日 | 研究の内容 | T・C要請 |
|------|--------|---|----------------------|
| 第1回 | 4月17日 | 研究主題・内容・方法等の検討 | |
| 第2回 | 5月 1日 | 研究計画の確認・実態調査の項目の検討 | |
| 第3回 | 5月22日 | 実態調査の考察と主題を達成するための取り組み | |
| 第4回 | 5月29日 | 「書く活動」と「学びの場」についての具体的な取り組みについて 「話す・聞くチェックシート」について 授業案の作成の仕方について | |
| 第5回 | 6月12日 | ブロック授業実践の授業案検討 | |
| 第6回 | 6月26日 | Q-Uの分析と今後の取り組みについて県学力把握調 | |
| 第7回 | 7月 3日 | 査の分析・改善策について | |
| 第8回 | 7月10日 | ブロック授業実践1回目 | 2年 赤星 美佐 6年 田邊 博幸 |
| 第9回 | 8月21日 | 教育課程講習会の 環流報告 Q-Uの分析と今後の取り組み 県学力把握調査の分析・成果と課題について | |
| 第10回 | 9月 4日 | ブロック授業実践の授業案検討 | |
| 第11回 | 9月11日 | ブロック授業実践2回目 | 1年 高野恵美子 5年 中村 英彦 |
| 第12回 | 10月 9日 | ブロック授業実践の報告 共同研究の授業案づくり | |
| 第13回 | 10月16日 | 第3学年授業案検討 | |
| 第14回 | 10月23日 | 授業実践（共同研究・研究授業） | 3年 高石 圭子 ○ |
| 第15回 | 10月30日 | 第4学年授業案検討 | |
| 第16回 | 11月 6日 | 授業実践（共同研究・研究授業） | 4年 新藤 徹 ○ |
| 第17回 | 12月11日 | 「話す・聞くチェックシート」による児童の実態について 研究のまとめ方について | |
| 第18回 | 1月29日 | 2回目のQ-U実施後の振り返り 実態調査の振り返り 研究の成果と課題 | |
| 第19回 | 2月19日 | 研究のまとめ、来年度の方向性 | |
| 第20回 | 2月26日 | 紀要の作成 | |